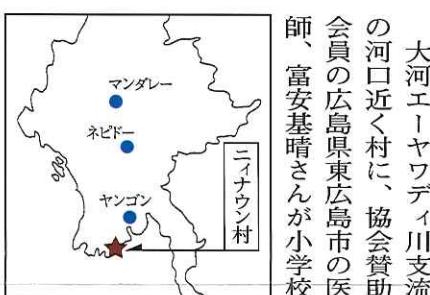




ミンガラバード

こんにちは

認定 NPO法人
日本・ミャンマー
医療人育成支援協会
〒700-0815
岡山市北区野田屋町2-4-18
TEL: 086-224-0102
FAX: 086-221-2554
URL: <http://www.mjcp.or.jp>



大河エーヤワディ川支流
の河口近く村に、協会賛助
会員の広島県東広島市の医
師、富安基晴さんが小学校

サイクロン禍の村に小学校

2008年にミャンマー
を寄付した。
2008年にミャンマー
を襲った巨大サイクロンで、
海に近い低湿地のニイナウ
ン村は大きな被害を受けた。
人口約200人のうち15
人が死亡、小学校も丸ご
と流された。その後、避難
していた村人も徐々に村に
帰り、現在は住民約180
人。小学生が42人いるが、

通う学校はなく、学校の再
建が待ち望まれていた。
新しい小学校はまだ建設
中だが、3月30日に贈呈式
があり、富安さんはヤンゴ
ンから6時間、車とボート
を乗り継いで出席した。校
舎は鉄筋レンガ造りで、サ
イクロンが襲来しても壊れ
ないようにできており、村
の避難場所になる。建設

東広島市の富安医師 寄付

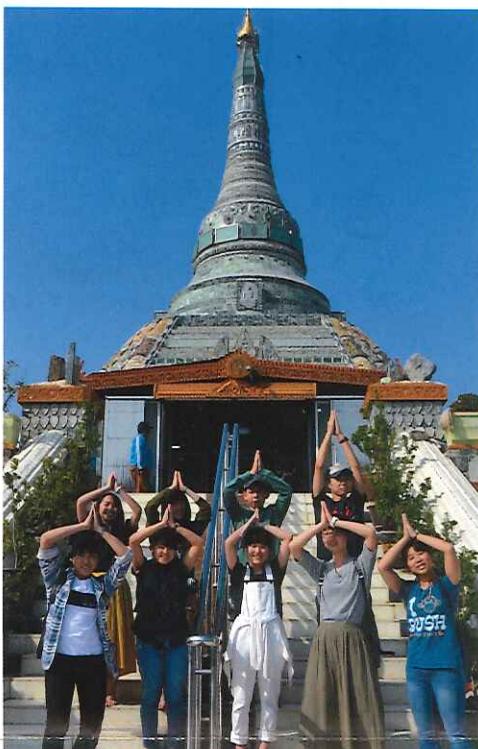
にあたって村民は労力奉仕
をし、街から鉄骨やセメント
資材をボートで運ぶなど
協力している。

小学校の開校は6月で、
とりあえず先生1人で授業
はスタート。1年後には公
立小学校となり、国から教
員が派遣され、教材も配布
される。

寄付小学校3校目

協会を通じてミャンマー
への小学校寄贈は、西山央
子理事の「あかね・コンザ
ウン小学校」、NPO法人
地球元気塾（東京）の「地
球元気塾・チャウス小学校」
に次いで3校目。

ミャンマーで見た、考えた



パゴダの前で全員記念撮影。このパゴダは最近、地元の翡翠収集家が翡翠を使って建立し、新しい観光地になっている=マンダレー

ミャンマーへ昨年12月、岡山学芸館高校（岡山市東区、森健太郎校長）の当時の1年生9人が研修旅行に出かけた=前号掲載。全員が医療系への進学を目指しており、生徒たちは診療所を見学し、自閉症児の施設を訪問、また現地の高校生と交流した。帰国後、研修体験の感想文を綴り、同行した協会の岡田茂理事長に寄せた。その中から2編（抜粋）を紹介する。

岡山学校芸館高校

研修旅行記

戦争を正しく理解すること

2年 杉本祥太郎

ヤンゴンにある日本人墓地は3500坪の土地に大小さまざまな慰霊碑や墓石、墓碑が並んでいました。その一番奥には、ひときわ大きな大理石の礼拝所がありました。始めは正直、沢山ある観光地の一つという軽い思いで

行きました。しかし、入つてかことはとてもなくつらかったと思います。異国で倒れた戦友の魂を鎮めにやって来たのは、流した血でつながった者への感謝と自分たちは今、幸せに生きていることを伝えたかったからだと思います。

かつて1万人程いた戦友

子供たちの笑顔守る仕事を

2年 飯塚 朝葵

ミャンマーでは、手術が必要とわかつても、高額な費用のため手術が受けられない人が沢山います。交通事故の死者の数が非常に多いというのも大きな課題と感じました。そして、手

術を受けられても社会福祉が不十分で、その後の暮らししが大変なことも問題となっています。

そんな医療現状をみた私は、日本での吉岡秀人医師が運営する「ジャバ

ンハート」の活動を、マン

ダレー郊外のワッヂエ病院

で見学した時はとても感動

しました。無料で手術を受

けた子供たちがボランティ

アの日本人看護師たちと笑

顔で過ごす様子が魅力的に思いました。子供たちと一緒に塗り絵をしていると、私の名前を呼んでくれました。それが今でも一番の思い出です。

でも、一般的には子供た

ちが病気に苦しみながら手

術を受けることがとても難

しいのがミャンマーの状況

です。このことを知った私

にいつたい何ができるのか。

日本の「国境を越えた医療」が沢山の命を救っていることを知り、将来、この子供たちの笑顔を守るような仕事をしたい、と思うことができました。

でも、一般的には子供た

ちが病気に苦しみながら手

術を受けることがとても難



初のPET-CT 医師ら岡山で研修

がんの早期発見に威力を發揮する最先端の医療機器「PET・CT（ペット・シーティ）」がミヤンマーで初めてヤンゴン総合病院に導入され、医師ら2人が協会の招きで3か月間、岡山で研修を受けた。

市北区、加地充昌院長)で
画像診断方法と機器の操作
法、メンテナンスをそれぞれ
勉強した。

PET・CTは病変の活動状況をみるPETと、臓器の形や場所をみるCTの特徴を組み合わせた検査。がんの早期発見や再発・転移を1回の検査で調べることができる。

引き続き導入
協会に研修依頼

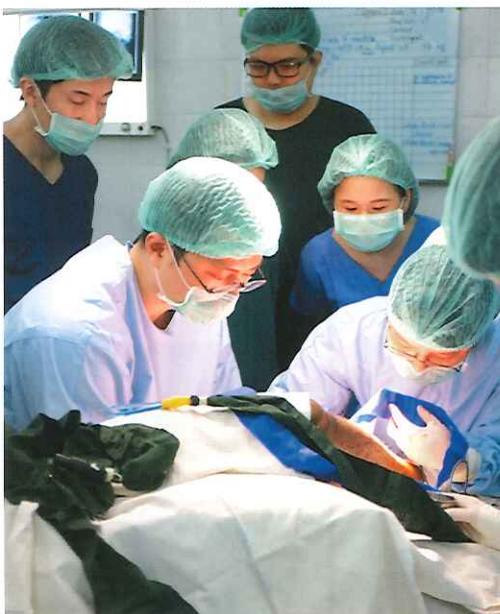
妊婦検診に利用
北村記念産院
クリニツク
ミャンマー唯一の世界遺産「ピュー古代都市群」のあるピー市に三重県伊賀市のニチニチ製薬が寄付した「北村記念産院クリニック」が開院して丸1年の4月の日、同製薬の嶋田貴志さとが訪れた。

同産院はミャンマー健康財団が運営するクリニックと同じ敷地内にあり、妊婦検診に利用されていた。

短集後記

編集後記 禁句と心得ながら、その行状について口走ってしまいます。身勝手だ、辛抱しない、礼儀知らずだ…。この半面、頼りがいを感じたり、優しさに触れたり、鋭い感性にドキリとさせられたりすることがあります▼岡山学芸館高校生のミャンマー研修記を読んで感じたのはもちろん後者です。掲載の2編からは平和への強い希求、進路への固い決意が伝わってきました▼他の7編は紙面のスペースがなくて、紹介できませんでした。それぞれにミャンマーでの体験が若い世代らしい目で綴られていただけに、申し訳ありません。(西崎)

「自信つき、やつていけそう」



現地の医師へ形成手術の指導=ヤンゴン総合病院

シンポ ■ 手術指導 ■ 検診

岡山大口腔外科の水田
展吉講師と山近英樹講師ら
はバゴー総合病院で口腔
がん検診をした。約40人
を調べ、口腔がんや前が
ん症状の人が見つかった。
この検診には口腔外科医
である協会理事の永木
久夫・岡山プラザホテル
社長も同行した。

協会の岡田茂理事長をリーダーに岡山大学を中心にして、た医師らが1月、ミャンマーを訪問した。総勢30人。それぞれの専門分野の医療支援活動を各地で繰り広げた。

岡山大中心に30人

年初の恒例行事になつて
いるミャンマー医学研究大
会のシンポジウムでの講演
は岡山大の6人。岡田裕之
教授（消化器内科）、杉原
教授（人間生態学）が
ピロリ菌や内視鏡検査につ
いて話した。光延文裕教授
(老年医学)、頬藤貴志准
教授（環境）は環境

岡山大中心に30人

また松川昭博教授（病理学）は岡山大学の医学教育について講演した。

再訪
患者年間3万人超
あかねクリニック

ヤンゴン第2医大に 骨髓移植センター

岡山大で研修の医師



エイエイジ教授

協会だより

期生20人始業式
あかね基金

クの活動状況などをみた。
2009年9月の完成時の時はこの村は水路が唯一の交通手段で、出席者は舟で参加した。今は新し道路ができ周辺地域と結ぶれ、村の戸数も約300、道路がでり5000に増えた。
診療所の患者数が2007年は31,730人にとり、周辺も含めた地域の治療中心となっていた。病院は下痢症、糖尿病、高血圧や結核が多くった。
医師は巡回だが看護師、助産師ら7人が常勤でいる。その宿舎が近くに欲しいというのと、水を確保するタンクの設置の希望もあた。

岡山大で研修の医師
かつて岡山大学医学部で
学んだヤンゴン第2医科大
学のエイエイジイ教授（血
液学）が中心になつて、ミヤ
ンマーで初めての骨髄移植
センターが同医科大学に開設
された。1月8日の開設式
に岡田茂理事長が招かれて
出席した。

出席した。

骨髄移植は白血病や再生
不良性貧血などに用いられ
る治療法。同教授は200

ウングンで4月2日、准助産師を目指す20人の始業式があった。

西山央子理事が設立した奨学制度「あかね基金」を受ける4期生。半年間、勉強して准助産師の資格を得る。この奨学制度は2015年にスタート、5年間に毎年20人ずつ計100人の准助産師を育てる計画。